

「アイヌ刺しゅう」の担い手たち

齋藤 玲子

民博 民族文化研究部



民博が委託事業として実施しているJICA博物館学コースにおいておこなわれた刺しゅうワークショップ(2015年)。中央が講師の山本みい子さん

アイヌの衣類に施されてきた刺しゅうやアップリケによる装飾は、近年はインテリアや小物などにも応用されている。作る目的や作品の種類は多様になり、作り手もアイヌのみにとどまらない。

アイヌの衣類や木彫品などを総称するとき、「工芸」とは言うが、「手芸」はあまり使われてこなかった。たしかに、伝統的な衣類に施されてきた装飾は手縫いであり、手芸といわれれば、そうかもしれない。また、木彫りと違い、衣類は商品としてではなく自分や家族のために作る人が多いことも、手芸的なのだろう。

アイヌの衣文化、特に儀礼用の衣服は、和服に似た衣服をはじめ鉢巻きや前掛けなどに、刺しゅうやアップリケの技法で装飾を施している。地方差はあるが、木綿衣の装飾技法は三〜四つにわけられ、よび名もそれぞれ異なる。服地に直接刺しゅうをするものと別布を衣服に重ねて縫い付けた上に刺しゅうするものがあり、さらに別布(色でわかることもある)をテープ状にして文様をつくるものと、(白い大きな布を)切

り抜いて文様をつくるものにわけられる。手に入る限られた素材を巧みに取り入れ、独特の造形が生み出されてきたのだ。これらの装飾を便宜的に「アイヌ刺しゅう」とよぶことにして、作る目的や作り手に注目しつつ、現在にいたる変遷を概観してみたい。

自家用か、売り物か

一九七〇年代ころから文化復興の気運が高まり、各地で儀式の復活や芸能交流などが増えてくると、伝統的な衣装を着る機会が多くなった。一九七一年に結成された北海道ウタリ協会札幌支部(当時)は、「支部の行事がある度に民族衣装を借りて歩く」のではなく、自分たちの手で作りたいたいと協会本部に働きかけ、一九八〇年に公共職業訓練として刺しゅうなどを学ぶ「織布科」の開講にこぎつけた。初期の受講生の

なかには、訓練を契機に制作活動を始めたり、後に指導者となる人もいた。こうした状況は、札幌に限ったことではなく、伝統的な衣装を自らの手で作ろうという動きは道内の各地で高まっていった。

一九八〇年代半ばから後半になると、制作依頼を受けたり、個展を開く人も出てきた。たとえば、札幌駅に展示されている大型のタペストリーの作者である加藤町子氏(故人)は、一九八四年ころに道内のホテルからタペストリーなどの注文を受けて着物以外のものも作るようになり、作品を買ってもらったようになったと語っている。加藤氏の作品は「ふるさと切手」の原画に選定され(二〇〇三年)、アイヌ刺しゅうは北海



札幌駅西コンコースに「アイヌアートモニュメント」として展示されているタペストリー。2014年・加藤町子作

道イメージのひとつとして定着しつつある。作家として名の知れた人のみならず、博物館のミュージアム・ショップや新千歳空港などの店でも刺しゅう作品の販売が増えている。

刺しゅうを学ぶ人たち

アイヌ刺しゅうを学ぶことのできる場合も、ひろがりを見せている。(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構や博物館などの公的な講座をはじめ、新聞社のカルチャー教室や手芸店の教室など主催も受講者も多様である。

アイヌ服飾文様研究家の津田命子氏(つだのぶこ)が出版した『伝統のアイヌ文様構成法』によるアイヌ刺しゅう入門は、そうした講座で教科書としてよく使われている。彼女のもとで学び、本に掲載する見本作成に協力し、講師として活躍する人のなかには、アイヌ刺しゅうにひかれ、長年取り組んでいるアイヌではない「和人」も少なくない。また、津田さんが講師を務める「ハンドメイド」のカルチャースクール(ヴォーク学園札幌校)では、「アイヌ刺しゅう短期講座」の受講生の多くが道外からの参加という。

刺しゅうをきっかけに、アイヌ文化に関心をもつ人が増えるのは歓迎すべきことである。しかし、アイヌとアイヌでない人とは、刺しゅうをする目的や姿勢が異なる場合も



筆者がいただいたテーブルセンター(間宮喜代子さん作)とバッグ(西田香代子さん作)。お二人とも(公社)北海道アイヌ協会主催の「北海道アイヌ伝統工芸展」で上位入賞を3回受け、認定された「優秀工芸師」で、受注制作も多い

多い。アイヌの作り手が儀礼用の衣装として、あるいは商品として作るとき、「余暇」に「趣味」でする「手芸」とはいえない。いっぱい、多くの和人にとっては、趣味以上のものにはなりにくい。

このようにアイヌ刺しゅうは、取り組む目的も、作品の種類や使い手も、そして担い手自体も多様化してきている。完成したもののだけを見て、「手芸」「工芸」と線引きすることはできない。そもそも、なにをもって「アイヌ刺しゅう」とするのか、再考すべきときかもしれない。